

## 編集後記

学会雑誌の編集にかかわるのも、自分が主催する国際シンポジウムの特集を組むのも、私にとって初めての体験である。その仕事をめぐる評価は読者の皆様に委ねるが、いま、原稿の編集をやっと終えたことにほっとしている。

思えば、『21世紀アジア社会学』第5号にも、私が事務局として開催した長崎大学東アジア共生プロジェクト国際シンポジウム「グローバル化時代における人間と社会：日中間の対話」の特集を組んで頂いた。そのとき、私は論文を集めて学会事務局にお渡しするだけだったが、それでも事務局と編集委員の大変さを遠くから感じ取った。これまでの事務局と編集委員の仕事に改めて敬意を表したい。

またふりかえてみると、日中社会学会に入会したのは修士2年生のときだった。あれこれ10年以上も立った。修士だった私はその後8年間かけて博士学位を取り、そして2011年より、任期付きではあるが、テニュアトラック助教(テニュア取得基準さえクリアすれば、テニュアを取得する)として長崎大学で勤務するようになった。この間、日中社会学会のお世話になりっぱなしだったことに、申し訳なく思っていた。いまこうやって、ささやかではあるが、自分も学会の仕事に貢献できたことにうれしく思う。

今回の編集作業を通じて、日中社会学会が小規模の学会にもかかわらず、日中両国だけではなく、東アジア諸国・地域の学术交流と対話を促進してきたその意義の大きさを改めて感じた。とくに昨今の東アジア諸国の関係がぎくしゃくしているからこそ、その解決策を探るのに学术交流と対話が必要不可欠である。2014年4月より、私は長崎大学に新設される「多文化社会学部」に学内移籍する。この学部には、現在の日中社会学会理事の数名がかかわっている。今後、長崎大学の「多文化社会学部」を一つの結節点として、学术交流と対話の可能性がさらに広がっていくことを楽しみにしている。

話はやや脱線してしまったが、編集作業で多くのことを勉強させて頂いたことに、重ねて謝意を表す。

(南誠(梁雪江))

## 投稿規程

- (1) 『21世紀東アジア社会学』は、東アジアについて、世界の華人華僑について、及び、東アジアや華人華僑と関連づけて日本について論じられた論文、研究ノート、書評論文、研究動向論文などにより構成され、1年に1号刊行する。
- (2) 投稿が可能なのは、日中社会学会会員および日中社会学会事務局が依頼した人とする。会員の場合、投稿する当該年度までの学会費が納入済みであることを条件とする。
- (3) 投稿原稿は未発表のものでなければならない。
- (4) 『21世紀東アジア社会学』に掲載されたすべての原稿の著作権は、日中社会学会に帰属する。
- (5) 投稿に際して、執筆要領は、日中社会学会事務局の指示に従うこと。
- (6) 投稿原稿はE-mailの添付ファイルとして送付する。ファイル形式は、Ms-wordとする。
- (7) 投稿論文は、日中社会学会事務局が委嘱した審査員の審査結果を考慮の上、事務局が設置した編集委員会が採否を決定する。

## 【付記】

- (1) 本投稿規程の改定は、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 本投稿規程は、2008年5月1日より実施する。

## 「21世紀東アジア社会学」第6号

発行 2014年3月31日  
発行者 日中社会学会  
代表者 首藤明和  
編集担当 南誠・首藤明和  
事務局 〒186-8601 国立市中2-1 一橋大学大学院経済学研究科 南裕子研究室内  
郵便振替口座 00140-9-161801 (加入者名：日中社会学会)  
学会HP <http://www.japan-china-sociology.org/>  
印刷 株式会社 昭和堂 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F